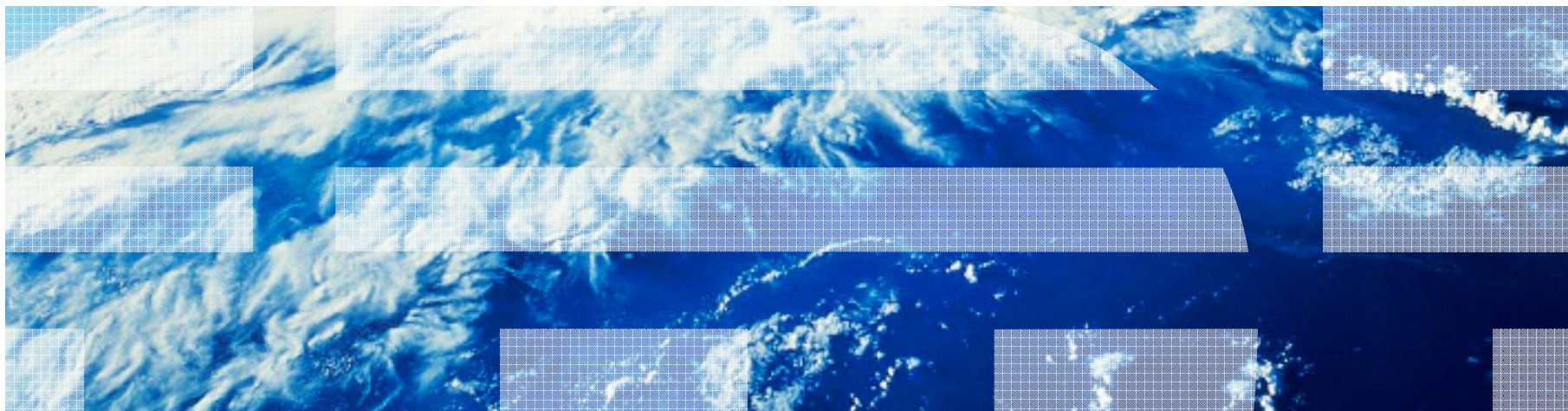


# Resilience Workshop 2013 パネルディスカッション

2013.10.11



この資料は、東北大学災害科学国際研究所と日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所が共催したレジリエンス・ワークショップ2013 (<http://www.mm.civil.tohoku.ac.jp/ibm/>) でのパネルディスカッションの内容をまとめたものです。

---

## パネルディスカッション 参加者

### モデレーター:

- 日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所部長 渡辺日出雄

### パネリスト:

- 東北大学災害科学国際研究所 副所長 今村文彦
- 仙台市消防局 参事 平久大
- (株)河北新報社報道部 副部長 古関良行
- (独) 科学技術振興機構 センター長 寺沢計二

## パネルディスカッションの目的

2015年に仙台で行われる国連防災世界会議に向けて、東日本大震災の経験を踏まえ、2005年に採択された兵庫行動枠組み2005-2015(Hyogo Framework for Action or HFA)を補完・強化する項目を、レジリエンスの観点で議論し洗い出す。

---

国連防災世界会議 プログラム成果文書  
「災害に強い国・コミュニティの構築：兵庫行動枠組2005－2015」骨子

1. 防災を国、地方の優先課題に位置づけ、実行のための強力な制度基盤を確保する。
2. 災害リスクを特定、評価、観測し、早期警報を向上する。
3. 全てのレベルで防災文化を構築するため、知識、技術、教育を活用する。
4. 潜在的なリスク要因を軽減する。
5. 効果的な応急対応のための事前準備を強化する。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/kikan/kosshi.html>

## レジリエンス・ワークショップ2013からの提言

東日本大震災から得られた知見・教訓を生かし、兵庫行動枠組(HFA)を補完・強化するには

## 継続性

- 必須データの広域バックアップの仕組みの構築
- 防災活動の市民一人一人・コミュニティーでの実践
- ライフラインのレジリエンス性向上への支援
- 投資・研究の継続性(平常時と災害時)

都市(自治体)・コミュニティー・企業の継続性(BCP)

## ビッグデータ

- 震災アーカイブの構築と活用
  - 分析結果を意思決定に活用
- ソーシャル技術の活用と情報の信頼性

災害アーカイブの構築とソーシャル技術の活用

## 連携

- 広域の自治体間の連携と様々な立場の関係者の連携
- 連携をITで支援
- 世界防災フォーラム(仮称)の設立

様々な連携を推進する仕組み